



8月です！ポーポキはねこですが、暑い日にアイスクリームを食べたり、レモネードを飲んだりして、木陰で寝ます。暑い日に涼しくなるために、あなたは何をしますか？

## Popoki's Hot News!



### Coming up!

9月28日「ポーポキ、おうちに帰れないって、ということ？～世界・FUKUSHIMA・私たちの生活から避難の権利を問う～」

神戸YMCA 三宮会館 14:00～ くわしくは8ページを参照

10月12日「ポーポキと一緒に平和と健康を考える」

兵庫医療大学 地域連携推進センター

秋はポーポキと一緒に

平和・避難・健康について一緒に考えみませんか？



### 「一言の平和」コーナー

ポーポキのお友だちのむろにゃんは、次の「一言の平和」を送ってくれました。英語の俳句です。

「家族で祖母のお墓参りに行き、その戦争中の苦労話を思い出す」  
あなたは今日、どんな「平和」に出会いましたか？

ぜひお聞かせください。

ポーポキのメール [ronniandpopoki \(at\) gmail.com](mailto:ronniandpopoki(at)gmail.com) !

## 寄付をいただきました！

先日、ポーポキはミッション・トゥー・シーフェアラーズ 神戸より寄付をいただきました。大変感謝しています。チャプレンのポール・トルハスト先生に同センターやその働きについて書いていただきました。以下がその記事です。



### A home away from home in Kobe (遠く離れても家と呼べる場所)

私たちの生活を考えると、毎日世界中からのおいしいものを食べて、ヨーロッパからの流行りのファッションを身に着けて、そして中国で組み立てられたスマートフォンを使う。産業が必要とする燃料や鉱物資源を含めて、これらのものはすべて、海から運ばれてくる。地球を行き来し、私たちの日常製品の9割を運ぶ船舶で働く人々はシーフェアラーズ（船員）と呼ぶ。私たちは恐らく、彼ら（男女）に会うことはないが、私たちが楽に生活できるように、何か月もお家を離れ、自らの楽な生活を犠牲にする。

私たちにとって、船員さんたちは、「去る者は日に疎し。」とでもいえる。そこで、ミッション・トゥー・シーフェアラーズは聖公会連合の一部であり、彼らが忘れられたままにされないために存在する。神戸を含めて、200以上の港町にチャプレンやボランティアによって、家族や大切な人から遠く離れ、危険な仕事を行っている彼らに「遠く離れても家と呼べる場所」をつくり、私たち陸で暮らしている人が当たり前にするのを彼らに提供する。

それぞれの言語で書かれた新聞や雑誌を持って乗組員を訪問し、神戸市や私たちのセンターについて情報提供したりする。最も大事なことは、彼らの話を聞いたり、喜びや心配事などを聞いたりする。彼らは最低10か月の契約期間を、小さな「箱」の中で同じ20人と過ごすので、短い間でも違う人と話ができるのはストレス解消に役立つ。

最近、船舶は数時間しか港にいない。時間があれば、船員さんが陸に上がってリフレッシュしたり、買い物に行ったり、家族に連絡したり（船内のインターネットはごく限られている）するのを手伝う。神戸元町のセンターに誘う。そこのWiFiを使って家族に連絡したり、チャペルでお祈りしている、ビリヤードを楽しんだり、古本や服を見たり、そしてビールでも飲みながらリラックスしたりできる。

船員は、船上で体験できない「普通」の暮らしを必要としている。新しい人と話したり、いつもと違うことをしたり、数時間でも船を離れたりとすると、彼らの心身の健康を上昇し、仕事の能率にも役立つ。ということは、より安全な航海につながる。

言葉も町も人もなにも知らないまま日本に来たら、かなり寂しく怖い場所だと感じるかもしれない。ミッション・トゥー・シアフェアラーズは1895年以来、国籍や宗教を問わず神戸に来られた船員の寂しさを癒

すための活動をしてきた。昔と違うこともある（もう電話や手紙を使わずにフェイスブックやツイッターのアップデートをする）けれど、船員たちは依然として「おうち」を必要としている。それを提供しようとしている。自らの国から遠く離れているとき、ほっとできる「おうち」があるとずいぶん違うと思う。

Paul Tolhurst

Chaplain

The Mission to Seafarers, Kobe

### ポーポキ in マレーシア！

8月6日～7日、ろにゃんとポーポキは MERCY Malaysia 主催の国際人道支援会議に参加しました。MERCY Malaysia 創立20年を記念するイベントでした。三日間にわたり、数多くの全体会議セッションやパネルが開催され、NGO、研究者、実務者、行政官や政治家などが参加しました。ろにゃんは、「レジリエンス向上、気象変動対応と減災対策」というテーマで二つの発表を行いました。最初は、「不可視性と恐怖に対応する～平和研究やインクルージョンから減災を考える～」という発表にももちろん、ポーポキは登場しました。二つ目の発表は、「社会的レジリエンス～阪神・淡路大震災から学ぶ～」です。パネルや全体会議の話で人道支援の重要性と、変化する私たちの世界において人道支援の難しさが強調され、非常に興味深かったです。このような有意義な会議に参加できて、感謝しています。



## 核問題を考えるスカイプ

ろにゃん

今年も核問題を考えるスカイプをしました。参加者はアメリカピッツバーグ市の Remembering Hiroshima, Imagining Peace の Ann Rosenthal さんや同団体が開催した映画上映会のみなさん、グアム(グアム)の問題に積極的に取り組んでいるグアム大学の Michael Lujan Bevacqua 先生とコロラド大学の教員で Tiara Na'Puti 先生、そしてポーポキ・ピース・プロジェクトのアスタにゃん、なぎさにゃん、かずにゃん、たいにゃんとろにゃんです。

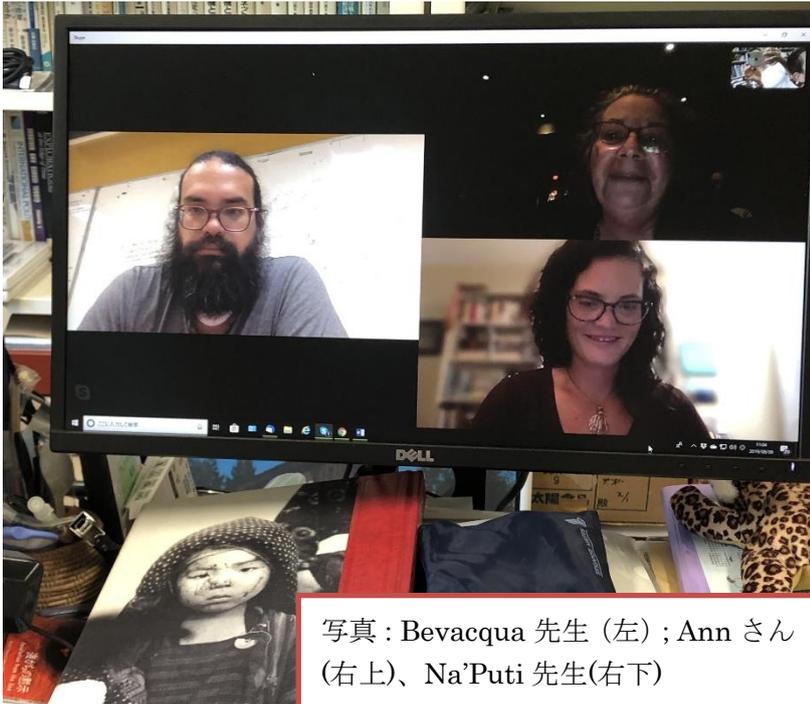


写真: Bevacqua 先生 (左); Ann さん (右上)、Na'Puti 先生(右下)

スカイプは日本時間 8 月 9 日 午前 10:00 に始まりました。まず、みなが自己紹介しました。見えにくいとか、聞こえにくいとか、いろいろな問題があったにもかかわらず、いろいろな話ができ面白かったです。最初はトランプ大統領のことは日本やグアムでどう思われているかという質問を受けました。日本から見ると核政策はとても怖いですが、グアムから見るとさらに複雑です。アメリカの領土であるため、グアムは同時に「我が国」として守るべき存在と、最前線で「我が国を守る」ために犠牲になりうる存在です。グ

アムにとって、グアム島にアメリカがいることは安全を高めることになるか、安全を脅かすことになるかが問題だと指摘されました。

福島第一原発事故の影響についても話し合いました。事故による放射能は、世界中に広がっていることや、核物質をはじめ、様々な有害物質を世界中にばらまく米軍が世界の環境を汚染していることについて話しました。グリーンウォッシング(green washing)の問題も取り上げ、米軍がいかに関与しているか、グアムや北マリアナ諸島の環境に配慮しているように見せかけながら、爆撃や射撃訓練場など、環境や人々の生活に大きな被害を与える破壊的な計画を進めている事例が出されました。

最後にアスタにゃんが核保有国に囲まれた小さな国ネパールの立場から質問しました。核による安全保障は危険だということを、どうすれば周囲に理解してもらえることができるのか。それに対して、Bevacqua 先生は、再び誰のためのどのような安全かを考える必要があると言って、平和とはなにかを再想像する必要があると指摘しました。Na'Puti 先生は新しい未来を想像したりする必要性を指摘しました。教室では詩や芸術を使って、関心を引き出すと言っていました。Remembering Hiroshima Imagining Peace の Ann さんは、エコアートがとても有効だと言っていました。



写真：熱心に話に参加するにゃんたち。  
左からたいにゃん、アスタにゃん、かずにゃん、ろにゃん。なぎさにゃん撮影。

全体参加をふりかえて、かずにゃんとなぎさにゃんがコメントを送ってくれました。かずにゃんは、「先日、核問題についてのオンライン・ディスカッションに参加させていただきました。長崎に原爆が投下されてから 74 回目の 8 月 9 日、原爆が炸裂したまさにその時間に世界を繋いで核問題について話し合えることを嬉しく思いました。しかし、未だにレトリックにまみれた核被害の現状は形を変えて続いており、それぞれの問題意識を共有することで、私の核への視角も広がったように思います。こうした話し合いを日常的に、継続的に続けて行くことこそ大事だと思います。来年も参加できることを楽しみにしています。来年の NPT

再検討会議での前進を祈りつつ。」

なぎさにゃんからは、「今回のスカイプ会議では、『世界は繋がっている』ということが印象に残りました。例えば、福島からの放射能は、大気や海水を通じて日本のみならず世界を汚染していきます。一国で起こった問題は、世界の遠い場所で悪影響を及ぼしている場合があります。核について考えるとき、それがたとえ原子力発電のような「平和利用」であろうとも、負の影響を世界規模で考える必要があると感じました。」

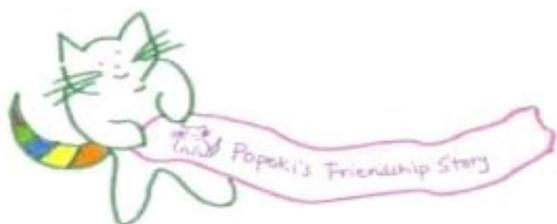
アスタにゃんからのコメントは次のとおりです。「2019 年 8 月 9 日、久しぶりにポーポキ・ピース・プロジェクトや Remembering Hiroshima Imagining Peace とその他の私たちの友だちによって行われたスカイプセッションに参加することができました。アメリカの軍事化、核兵器、原子力、気象変動、東京オリンピック、福島など、昨今の重大なトピックについて話したことはとてもよかったです。ポーポキの友だちであるピッツバーグの Ann さん、グアムの Bevacqua 先生、コロラドの Tiara 先生が彼らの仕事や生徒たちとともに平和について考え、現状を変えようとしていることを聞いて、とても嬉しく思いました。このスカイプセッションは、私にとって国境を超えることであり、平和について考え、関心を広げるためにはとても重要なものだと思います。」

たいにゃんもコメントを送ってくれました。「核の話をしていましたが、グアムにも問題がありました。核の話をしなかったのは残念でした。グアムの心はアメリカ本土と一致していません。グアムの人によると、アメリカの軍事基地によりグアムが被害を受けているようです。私はまだまだ分からないことが多いので、このことについて機会があれば知りたいです。世界平和をみんなで考えるのは他の人たちにもいろいろな意見があるので、少し難しいとわかりました。」

私は、最後に Bevacqua 先生が付け加えたことが印象的でした。学生たちに自らの生活の中の大事なことについて、脱教育(uneducate)する必要があると指摘しました。友だちの物語やアメリカの物語は、必ずしも自分の物語ではないので、それぞれの物語に自分の居場所はどこにあるかを再度考える必要があります。ポーポキの物語にみんなの居場所があるといいですね。

ちょうど長崎市に原爆が投下された 11:02 にスカイプが終わりました。参加したみなさん、ありがとうございました。また来年ね！





## \*Popoki's Interview\*

吉田一人さんインタビュー

聞き手：ろにゃん

今回は吉田一人さんに紙面のインタビューで答えていただきました。質問が漠然としていて、答えにくかったようですが、それでも書いてくれました。本当に感謝します。質問と回答は以下のとおりです。

1. 吉田さんは「長崎の被爆者」として紹介されることが多いと思いますが、自分のことについて教えてください。

◆「長崎の被爆者」として生きてきました。1956年に日本被団協が結成され、その翌年戦後12年も経った57年に初の被爆者対策法である「原爆医療法」が制定されました。これで「被爆者」の範囲が法的に決まり、全国的に被爆者組織がつくられて行きました。

東京では1958年東友会が結成されました。私はこの時から被爆者運動に加わり、これまで被爆者運動を続けてきました。被爆者に引退はないので、続けます。

2. 反核運動にはずっとかかわっていると思いますが、どのような活動をしていますか？核兵器がなくならないでがっかりすることが多いと思いますが、活動を続ける原動力は何でしょう？

◆被爆者運動の初期は、地区の会をつくって、被爆者探し（原爆当時 広島・長崎にいた人で原爆医療法に該当している人を探して「被爆者手帳」を取得してもらう）、被爆者の会に加入してもらう、自治体に被爆者の現状を訴えて、被爆者の会に助成金をだしてもらう、などが主な課題でした。運動としてはもちろん「核兵器禁止」「原爆被害への国家補償」要求を掲げてきました。

「核兵器禁止・廃絶」については、核兵器という「悪魔の兵器」をつくったのは人間です。人間がつくったものであるからには人間の手でなくせるはず。「核兵器はもうなくせない」という人たちは「人間不信」の極致です。それが、活動を続けている原動力です。

3. ポーポキは五感を使って平和を考えます。被爆体験を五感で表すとしたら、どのように表現しますか？

◆光（目）－熱線（体感）－爆風（浮力）－放射線（無感覚）－大量死

4. 今年のワークショップでみなさんが絵を描きました。その時の感想をお聞かせください。

◆杉並光友会（被爆者の会）が続けてきた「被爆者と区民と結ぶ交流セミナー」第31回（最終回）として初めて、出席者自体が”参加者”になって楽しみながら平和を体感するというユニークな会になったと、喜んでいました。最終回としてバツゲンでした。（\*同セミナーは被爆者証言のあと、ろにゃんによるワークショップがありました。）

5. マーシャル諸島で、アメリカの核実験によって永久に故郷の島(ビキニ島)に帰ることができない人にポーポキの布(「ポーポキ友情物語」)に絵を描くようお願いしたことがあります。活動の説明に福島第一原発の事故について話したら、彼女が怒り、「広島・長崎のことがあって、私たちのことがあって、チェルノブイリ原発事故のことがあって、そして今度はフクシマ…。なぜ、まだわからないの??？」と

言って、失った島の絵を描いてくれました。彼女は、原爆、核実験、原発事故をあまり区別せずに考えていたようですが、日本では別々のものとして考える人が多いと思います。吉田さんから見て、どういふふうに位置づけたら良いでしょう？

◆マーシャル諸島の核実験による被害の実態は深刻だと思います。繰り返された核実験によって、島民たちは故郷の島を追われたままの人たちもいます。

チェルノブイリ原発事故でも、放射線被害で住民たちは元に戻れません。

福島原発被害者も、故郷は放射線に侵されて住民たちは、故郷を追われたままです。

日本でも、フクシマさえ国民の記憶は薄れていると思います。

ヒロシマ・ナガサキも含めて深刻な放射線被害者です。連帯はもっと広げるべきだと思います。

ヒロシマ・ナガサキは「戦争中の住民への原爆投下による被害」という特殊性があります。その被害は放射線被害という兵器とは異なる特殊性を持っています。日本政府は、原爆被害を放射線被害だけに限っています。政府の被爆者対策の問題はこの点にあって、また、原爆被害についての国の責任を認めないことです。

核兵器・原発被害による被害の実相を広めながら、それぞれの被害の実相、特殊性（区別）を伝え、語り広げることが大事だと思います。

## 6. ポーポキは世界中に友だちがいます。ポーポキやみなさんへのメッセージをお願いします。

ポーポキは戦争の実相を世界に伝えてください。核戦争被害、核実験被害、原発被害など核被害の実相を伝えてください。戦争は「命をないがしろにする」ことです。殺人は大罪ですが、戦争では、人をたくさん殺すことが「功績」です。核兵器は大量殺人兵器で、さらに後世にも放射線をばらまき続ける”狂気の兵器”です。平和を守り、核兵器をなくすために、ポーポキの友だちといっしょに、がんばりましょう。

2019.8.14 吉田一人

吉田さん

写真：2018年11月17日のワークショップにて



# ポーポキちゃんの簡単ポガ教室

## Lesson 135

今月のテーマは、涼しさの保ち方！



1. まず、いつものように、美しく座りましょう。
  2. では、片手に扇子を持って、手首や腕を振りながら顔に風をおくりましょう。反対の手でもしてみてね。
  3. 次は、両手に扇子を持ち、腕をのばしましょう。今度は頭の上や頭のうしろのほうに風をおくりましょう。
  4. 最後は、両手に扇子を持って、肘をまげましょう。背中に風をおくれますか？
  5. できてもできなくてもがんばりましたね。では、「できたポーズ」をどうぞ！
- お疲れ様でした。少しリラックスできましたか？毎日、深呼吸・笑・リラックス、そしてポガを最低3分間練習しましょうね。

## ご一緒にいかが？



次回のポー会：9月20日@灘薬剤師会 19:00

8. 18-30 ポーポキ@ユネスコチェア・サマープログラム インドネシア・ガジャマダ大学
9. 28 ポーポキと色々なことを考えるサロン：福島第一原発事故による避難問題を考えるセミナー 14:00~16:30@神戸 YMCA 三宮会館 (詳しくは次ページを参照)
10. 12 平和と健康ワークショップ 兵庫医療大学 14:00~16:00 (さとにゃん)

ポーポキの友だちからのおすすめの絵本

『りょうくんのすすむみち—学校に行けない君たちへ—』作・絵 かねしろ みゆき

ポーポキといろいろなことを考えるサロン

## 「ポーポキ、おうちに帰れないって、どういうこと？」

～世界・FUKUSHIMA・私たちの生活から避難の権利を問う～

Popoki, what does it mean to be unable to go home? Thinking about the right to evacuate from the perspective of the world, Fukushima and our lives

Special guest  
特別ゲスト 加藤裕子(KATO Yuko)さん

(福島第一原子力発電所事故被災者、原発賠償関西訴訟原告)

(Refugee from Fukushima Daiichi Nuclear plant accident; Nuclear compensation lawsuit plaintiff)

いつ/When 2019年9月28日(土) 14:00～16:30

どこで/Where 神戸YMCA 三宮会館

神戸市中央区加納町2丁目 7-7-11

問い合わせ先/Information 神戸YMCA 国際・奉仕センター  
078-241-7204 <https://www.kobeymca.org/program/sannomiya/index.html>



参加費/Fee 無料/Free どなたでも参加できます/Everyone is welcome

### プログラム/Program

14:00 スタート

14:10 動画鑑賞 Video

14:20 ディスカッション・共有  
Discussion Sharing

14:50 加藤裕子さん!  
KATO Yuko

「避難～大切な命を守る～わたしの決断、ペットとともに」

“Evacuating: Protecting important lives – My decision to leave, and take my pets, too”

15:30 ディスカッション  
Discussion

16:20 共有  
Sharing

16:30 おわり  
End



主催/Sponsors: ポーポキ・ピース・プロジェクト、神戸YWCA 被災者

支援プロジェクト、神戸YMCA 国際・奉仕センター

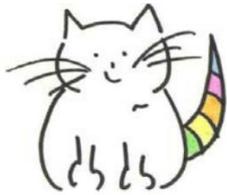
# Popoki in Print

ポーポキ通信のバックナンバー：

<http://popoki.cruisejapan.com/archives.html>

- 「ポーポキのミニ平和映画祭」「こくしのみど52」『神戸青年・Kobe YMCA News』No.652 2017.7-8
- ESD Digital Archives, Kansai Council of Organizations for International Exchange <http://www.interpeople.or.jp>
- 関西国際交流団体協議会の「デジタルアーカイブ(WEB版の事例集)にポーポキ! <http://www.interpeople.or.jp>
- 『平和を考える絵本出版 被災者支援きっかけに』『神戸新聞』(貝原加奈 2014.4.25 28面)
- 「ボランティア 37 団体に助成 大和証券福祉財団」『神戸新聞』(2013.8.23 朝刊 地域経済 8面)
- 「原爆の熱線で焼き付いたー “人影”再現、非核誓う」『神戸新聞』(2013.8.7 朝刊 22面)
- 「被災 秘めた思い描いて」「ひとと抄」『読売新聞』(2013.2.16 夕刊 4面)
- 広岩近広 『安全』『安心』の社会は足元から、ロニー・アレキサンダーインタビュー 『毎日新聞』2012.10.29 (「今、平和を語る」、夕刊、1面)
- R. Alexander. “Remembering Hiroshima: Bio-Politics, Popoki and Sensual Expressions of War.” *International Feminist Journal of Politics*. Vol.14:2:202-222, June 2012
- 「ポーポキと一緒に作り出す平和の根底に9条がある」NO: 66 2012年5月12日[子どもと守る9条の会]
- 「布に希望 60メートル」阿久沢悦子 『朝日新聞』2012.1.21 (兵庫・29面)
- 「平和祈る声まとめ本に」斎藤雅志 『神戸新聞』2012.1.19 (伝える1・17 3・11、22面)
- K. Wada. “Conversations with Ronni Alexander: The Popoki Peace Project; Popoki, What Color is Peae? Popoki, What Color is Friendship?” *International Feminist Journal of Politics* Vol.13, No.2, 2011, 257-263
- S. McLaren. “The Art of Healing” (Popoki Friendship Story Project) *Kansai Scene*. Issue 133, June 2011, p.10. kansaiscene.com
- R. Alexander. (2010) “The Popoki Peace Project: Creating New Spaces for Peace in Demenchonok, E., ed. *Philosophy after Hiroshima*. Cambridge Scholars Publishing, pp.399-418
- 「省窓」『神戸青年』No.606 2011.1.2 p.1
- No.1 「『ポーポキ、平和って、なに色?』の背後にあるもの」(連載) とさぼりライフ第19号 2010.10:4
- 堀越健志「シリーズ:こくさいのまで⑮(パレスチナについて)『神戸青年』No.604 2010.9-10
- 「みんなでやれば、何にかが変わる!」THE YMCA No.607 June 2010, p.1
- [ヒロシマと世界: 被爆地の声 非核と平和、復興と再生、許しと命の尊厳訴え] [http://www.hiroshimapeacemedia.jp/mediacenter/article.php?story=20100312140608602\\_ja](http://www.hiroshimapeacemedia.jp/mediacenter/article.php?story=20100312140608602_ja)
- 2010.3.15 中国新聞 ヒロシマ平和メディアセンター
- FM COCOLO 76.5 ‘Heart Lines’ 2010.1.9 Interview: Ronni on Popoki in Palestine
- “Human Rights, Popoki and Bare Life.” *In Factis Pax Journal of Peace Education and Social Justice* Vol.3, No.1, 2009, pp.46-63 (<http://www.infactispax.org/journal/>)
- 西出郁代 「ポーポキ、平和って、なに色? ロニー・アレキサンダーを迎えて」『PPSEAWA』(日本汎太平洋東南アジア婦人協会) No.63 2009.12, p.5.
- 「友情」第2号 2009.11 伊丹市国際・平和交流協会 年間事業報告 pp.1-2
- 「ともに・・・」No.29 2010.1 家庭と保育所、学校園、地域を結ぶ在日外国人教育情報誌 ポーポキ・ピース・チャンレジ情報 p.12
- 区民情報誌「なだ」2009.12, p.2. ポーポキ・ピース・チャレンジ情報。
- 「『ポーポキ、友情って、なに色?』」「私のいち押し」奥田光子 THE GAIDAI 2009.7.17 No.243 (関西外大通信)
- 「友情って・・・考える絵本」朝日新聞「生活」(阿久沢悦子) 2009.7.2
- 「友情を考えて人間と、ねこと、そして自分と～」れ組通信 RST/ALN 2009.6.28 No. 259, p.11
- 「カティング・エッジ」第35号 2009.6 (北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」)「新刊紹介:『ポーポキ、友情って、なに色? ポーポキのピース・ブック2』(レベッカ・ジェニスン) p.3
- 「猫を通して平和を考える 絵本の第2弾を出版」(斎藤雅志) 神戸新聞 2009.4.21
- 「ポーポキ、平和ってなに色?」KOBE YMCA NEWS「神戸青年」2009.3.1 No.593 p.2
- 「ポーポキ、ゴミってなに色?」KOBE YMCA NEWS「神戸青年」2009.1.1 No. 592 p.2
- 「友だちになってくれませんか?」RST/ALN 2009.2.22
- ラジオ番組の中のポーポキ!!! プロジェクト・メンバーの宇宙賀佳代子さんがラジオ番組で紹介してくださいました。ぜひお聞きくださいね。 <http://www.kizzna.fm/> 録音番組。(リンクは現在無効)
- やさしいから人なんです展パート20 実行委員会『世界人権宣言』ひょうご部落解放・人権研究所 2008. 10 500円。詳しくは: [blrhyg@osk3.3web.ne.jp](mailto:blrhyg@osk3.3web.ne.jp)
- 「KFAW カレッジ ロニー・アレキサンダー氏 講演会」エイジアン・ブリーズ/Asian Breeze No.54 October 2008, p.8 (アジア女性交流・研究フォーラム)
- 「ピースセミナー in 熊本 あなたにとっての「平和」とは?」Kumamoto YMCA News 10; Vol.437 October 2008, p.1
- 神戸新聞「人権宣言 兵庫から発信 全30条 イラストで表現 地元ゆかり 6名がパネル制作」2008.10.8 10





## 私にとってポーポキ

ゆきにゃん

この原稿を依頼されてから、何を書こうかと考えていましたが、もう一回、ポーポキ元気ってなに色？とポーポキ友情物語を再読して、今の私の事をちょっとだけ書こうと思います。

私は、保護猫の茶トラ 2 匹と一緒に暮らしています。とても賢い先住人のきな子(女子)と 2 年後に我が家に来たその日から、我が物顔のさくら君(男子)。そして私は先月また 4 回目の入院をして手術をしました。元気でない時も、いつもにゃんこは(ポーポキも)一緒。それと、ちょっとだけ元気になってきた時も一緒です。とても元気な時はあんまり二人の存在が気になりませんが、自分が元気でない時には、とても二人が重要な役割を果たしてくれます。具合が悪くてベッドで休んでいても、一緒に寄り添ってくれます。言葉は日本語ではないですが、十分に意思疎通可能です。嬉しいくらいに私の気持ちに寄り添ってくれます。これで、私の気持ちは平和になります。安らぎます。

阪神淡路大震災から 24 年、東日本大震災から 8 年が経ちます。

人間の力ではどうしようもない災害もありますが、人間の勝手に起こった災害もたくさんあります。もっと私たちは謙虚にならなくてはいけないと日々思います。ポーポキがいつも言っていることですね

普通にご飯が食べられて、働く場所があり、友人や家族を戦争に送り出さなくてもいいということが、どんなに素晴らしいことかという事をみんなで考え

ていきましょう。この8月が来ると亡き父の事を思い出します。第二次大戦で終戦の2週間前に兵役に取られて、終戦でソ連の捕虜になり、その後6年間シベリアで労役をしたそうですが、一回も私たち家族にはシベリアでのことは話しませんでした。

元氣と平和が大好きなポーポキが悲しむようなことが二度と起こりませんように、南海トラフ地震が起こりませんようにと、心から願っております。それから私のうちのニャンコが元氣でいてくれるように。



賢い女の子 きな子 7歳



おもしろい男の子 さくら 4歳



ご協力お願いいたします！



ポーポキ・ピース・プロジェクトは、『ポーポキ、平和って、なに色？ポーポキのピース・ブック1』（エピック、2007年）、『ポーポキ、友情って、なに色？ポーポキのピース・ブック2』（エピック、2009年）、『ポーポキ、元気って、なに色？ポーポキのピース・ブック3』を題材に、全身で平和の意味を探り、一人ひとりの「発見」を平和の創造に役立てようとする小さな平和活動団体です。また、2011年に起こった東日本大震災をきっかけに活動をしており、『ポーポキ友情物語 東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅』という本を2012年1月に発行しました。2006年に設立されて以来、日本国内外で幅広く平和のためのワークショップなどの開催を続けてきました。活動の資金はすべて本の売上や寄付によって行っています。

これからも平和を考えるためのピース・ワークショップ、読み聞かせ、ピースキャンプ参加、ポーポキのピース・ブックの翻訳（『ピース・ブック1』は既に10か国語に翻訳されている）、『ポーポキのピース・ブック3』の執筆などの活動を中心に活動を続ける予定です。定期例会「ポー会」を月に一度のペースで開催しています。一緒に活動なされたい方はぜひご参加ください。（ポー会の開催については、ポーポキ通信の「ご一緒にどうぞ」の欄をご参照されたい。）

また、こういった活動に対してのご協力、ご支援をぜひお願いしたいと存じます。本の購入・寄付・本についてのコメント、感想、注文などについては、[popokipeace@gmail.com](mailto:popokipeace@gmail.com) へお問い合わせください。

なお、本についての問い合わせや注文は、お近くの書店、アマゾン、あるいはエピック（TEL: 078-241-7561・FAX: 078-241-1918）へどうぞ。

ポーポキ・ピース・プロジェクト [popokipeace\(at\)gmail.com](mailto:popokipeace(at)gmail.com)



<http://popoki.cruisejapan.com>

郵便振替口座番号 00920-4-280350

ゆうちょ銀行 店番099 店名099店 当座 口座番号0280350

口座名 ポーポキ・ピース・プロジェクト神戸

ポーポキ平和募金は一口 1500 円 何口でも結構です。



THANK YOU FROM POPOKI!